

かけ橋



令和7年9月1日
小平市立小平第八小学校
9月号

<https://www.kodaira.ed.jp/08kodaira>

心をつなぐ

副校長 本間章郎

2学期が始まり、こどもたちの元気な声と笑顔が学校に戻ってきました。例年以上に暑い日々が続いた今年、各地を夏の風物詩が彩りました。ご家庭でも思い思いの夏を過ごされたことと思います。一方で、干ばつや豪雨が日本各地に大きな影響を及ぼしました。甚大な被害にあわれた地域の日も早い復興を願います。

令和7年8月、終戦から80年の年月が経った今年の夏も、各地で深い祈りが捧げられました。広島や長崎の平和を祈る式典では、世代を代表する方々の言葉が多くの人々の心を打ちました。そして、8月15日には、日本国中が戦争の犠牲となった方々の御霊に黙とうを捧げました。

戦時中は、愛する家族や隣人と離れ、日常生活のあらゆる行動が制限され、本心を言葉にすることも許されない世情の中、誰もが必死に生き抜こうとしていました。終戦から80年の年月が経ち、当時の出来事を知る方々が少なくなる中、苦しみや悲しみを知る方々の**心の声**を聞くことができなくなりつつあります。戦争の記憶が次第に遠くなっていく今、未来に向かう私たちにできることは何でしょうか。

あるインタビューに答えた言葉が心に残りました。「戦争はどうして起きるのか考えました。戦争はたくさんの人の命を奪って、悲しみしか残らない。大切なことは、もう少し、相手の話を聞くこと。相手を理解するように話し合う努力をすれば、戦争にはならないと思う。」この言葉は、戦争体験を語る「語り部」の方の話を聞いた小学生の言葉です。

他にも、戦争を体験した方々の言葉から、当時のことを改めて学び、これからについて考えました。その言葉をいくつか紹介します。

- ・正義の戦争はない。名誉の戦死はない。騙されちゃいけない。一人一人がよく考えて、外国の人たちとも手を携えて、簡単じゃないかもしれないけれど、よく話すこと。
- ・想像し、人々の気持ちに寄り添い、正しいことを丁寧に伝えること。
- ・大切なことは「学ぶこと」。
- ・「なぜ戦争は起きるの？ どうしてしちゃいけないの？」と尋ねることも、大人が丁寧に話すこと。
- ・あの時代に何があったのか忘れないこと。そして、多くの人々に想いを馳せて語り継ぐこと。

今は、日本と世界の国々との間で、人々や多様な文化の交流が友好的に行われ、互いを尊重し合うことを大切にしています。しかし、世界では、現在も戦争によって尊い命が奪われていることも事実です。

歴史から多くを学び、二度と戦争を繰り返さない約束のもと、私たちがこれからも互いの言葉に耳を傾け、理解しようと努力しながら、今そして未来のためにできることは…



学ぶこと 忘れないこと そして 心をつなぐこと

9月の生活目標

「あいさつをしよう」

八小のこどもたちの挨拶は元気いっぱいです。

朝の校内には、挨拶がたくさん聞こえてきます。「おはようございます。」の声から元気のよさが伝わってきます。

教室に入るとき、廊下ですれ違ったときなども「こんにちは。」「よろしくお願いします。」と自然に挨拶をする子が増えてきました。挨拶が飛びかう学校は清々しいです。

挨拶は、「いつでも どこでも 誰とでも」が基本です。笑顔の挨拶があふれる生活にしていきましょう。

生活指導主任